

## 2.1 Belgium ベルギー



地図は、[http://europa.eu.int/abc/maps/members/belgium\\_en.htm](http://europa.eu.int/abc/maps/members/belgium_en.htm) を元に作成

正式国名：ベルギー王国 Kingdom of Belgium

1. 面積	32,545km <sup>2</sup> (出典：ベルギー政府 HP)
2. 人口	1,026 万 3 千人 (2001 年、出典：ベルギー政府 HP)
3. 首都	ブリュッセル

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/belgium/data.html>

### 国の言語、使用状況

ベルギーは連邦国家で、連邦政府、地域行政政府、言語共同体の三つの同レベルの政治形態から成り立っており、それぞれが立法、および施行機関を持つ。公用語はオランダ語、フランス語、ドイツ語の3言語で、教育省は各言語共同体政府にある。したがって、文化・教育に関しては、オランダ語共同体、フランス語共同体、ドイツ語共同体が担い、決定権を保持している。各言語における教育機関の内訳は、オランダ語 55.84%、フランス語 43.62%、ドイツ語話者 0.54%である。

今回の調査は、オランダ語共同体の教育に関して行った。この共同体での国語はオランダ語で、第2国語フランス語、その他、使用頻度の高く学習必修言語は英語である。また、この他に、ドイツ語、スペイン語、イタリア語が学習言語として選択科目に組み入れられている。

## 2.1.1 ベルギー・オランダ語共同体の教育制度

義務教育	年齢				
	20/21	博士(最低3-4年)			
		修士2年	博士(最低3-4年)	修士1年	
		1年	修士1年	学士4年	
		学士3年	学士3年	3年	学士3年
		2年	2年	2年	2年
		1年	1年	1年	1年
	大学		単科大学		
	高等教育				
	18/19	7年 (オプション)	7年 (オプション)	7年 (オプション)	7年 (オプション)
	17/18	6年	6年	6年	6年
	16/17	普通科 5年	芸術科 5年	技術科 5年	職業科 5年
	第3レベル				
	15/16	4年	4年	4年	4年
14/15	普通科 3年	芸術科 3年	技術科 3年	職業科 3年	
第2レベル					
13/14	2年		2年		
12/13	普通科 1年		職業科 1年		
中等教育・第1レベル					
11/12				6年	
				5年	
				4年	
				3年	
				2年	
6/7				1年	
初等教育					
6					
2.5					
就学前教育					

## 2.1.1.1 教育段階

	行政管轄 (国、州、市町村)	年齢 / 年数	授業料 公的助成制度	就学 / 在学 ・進学率	学期制度年度 各休みの長さ
初等教育	共同体立 13.78% カトリック立 <sup>1</sup> 63.96% 州立 0.05% 市立 / 区 22.21%	6 ~ 12 歳	無料	100%	年度 9/1 ~ 7/31 秋休み 1 週間 クリスマス休暇 2 週間 春休み 1 週間 復活祭休暇 2 週間 夏休み 8 週間
中等教育	共同体立 16.33% カトリック立 75.53% 州立 3.18% 市立 / 区立 4.89%	12 ~ 18 歳	無料	100%	同上
高等教育	共同体立 カトリック立 単科大学 (Hogeschool) <sup>2</sup>	18 歳 ~	授業料無料。ただし、 毎年登録費を払う。 額は機関によって異なるが、 年間 500 ユーロ前後。家庭の財政的 事情により奨学金制度があり、 70 ~ 257 ユーロになる。 教材は実費。 また、旧植民地からの学生は 全て無料で、奨学金制度もある。	高等教育進学率 57% (2002/2003 年度)	前期：13 週間 9 月末 ~ 12 月末 後期：13 週間 2 月初 ~ 5 月中

## 2.1.1.2 統一／全国カリキュラム、試験制度

オランダ語共同体の統一カリキュラムはないが、Eindterm という到達目標を設定している。その目標は初等教育・中等教育では、各学年の科目ごとに記載され、成人教育ではコース内容ごとに記載されている。そして、授業プラン作成、教科書選択は各学校が任されているが、共同体が承認しているプログラムを採用しなくてはならない。また、監査官による視察もあるため、共同体のコントロールはしっかりしている。

高等教育は、現在進められている高等教育制度改革に基づいて再編されているが、2004 年 9 月にそのシステムが実施されると、各教育機関のプログラムはオランダ語共同体で認可される必要がある (2.1.5 参照)。

<sup>1</sup> カトリック系等の私立の学校も政府から援助があり程度の差はあるが、管理下にある。

<sup>2</sup> ベルギーでは中等教育修了後の教育機関として大学、および、Hogeschool (単科大学) がある。これは、高等技術学校・専門学校などと訳されているが、コース内容は単科大学に近い。3 ~ 5 年のコースで、修了時には、その内容に応じて、ソーシャルワーカー、助産婦、教員資格 (幼稚園・小学校・中等教育前期) 心理学アシスタントなどの資格を取得し、学位として Bachelor が授与される。また、Hogeschool の中には、生産管理工学技術者・建築技師の資格が取れるものもあり、それは、Master の学位が授与される。

	統一カリキュラムの有無、管理	試験制度・評価制度
初等教育	統一カリキュラムはないが、共同体の設定した到達目標に向け、各学校の責任で教材・授業内容が決定される。その際に、アドバイザーとして CLB (Centrum voor leeringen begeleiding) という機関がある。この機関のアドバイザーはそれぞれ、担当学校があり、その学校の児童一人一人のファイルを所持し、細かいケアをしている。5～7年に1度、共同体から査察のために検査官が来て、授業レベル、児童の学習レベル、状況をチェックする。また、校長からの要請に応じて、共同体から教育アドバイザーを呼ぶことも可能である。	国家統一試験はないが、学期ごとに期末試験があり、学年末の全体評価で点数が満たないと進級できず、留年もありうる。反対に優秀な生徒は飛び級することもあるが、評価は担当教師を中心として学校の責任で判断する。 また、CLB が共同体の規定に基づいた試験問題を作成、実施し、その試験結果から対象学校のレベルを確認する。最低レベルに達しない場合は、共同体からの指導が入る。
中等教育	同上	初等教育同様、学年末試験において十分な成績がとれないと進級できず <sup>3</sup> 、逆に飛び級もある。評価は担当教師と校長の成績会議で判定される。また、初等教育のように、共同体の査察、CLB によるレベル評価も実施されている。
初等教育・中等教育を終えていないが、修了書を必要とする者のため下記の試験が実施されている。 Examencommissie van de Vlaamse Gemeenschap voor het Basis Onderwijs Examencommissie van de Vlaamse Gemeenschap voor het Secundair Onderwijs		
高等教育 (BA、MA、PhD)	2004年9月から欧州で新しい高等教育制度が導入され、それに基づいたカリキュラムが設定されている (2.1.5 参照)。	前期・後期と2回試験があり、担当教官による成績判定会議で合否、および、グレードが決定される。無試験入学のため、1学年・2学年間の留年が多い。学部によって異なるが、2年次への進級率は20%～50%。

### 2.1.1.3 大学入学方法

中等教育修了証明があれば、無試験で入学可能。ただし、医学部・歯科学部・理工学部など、いくつかの学部では入学試験が実施されている。また、オランダ語母語話者でない学生に対して、オランダ語能力試験を課している大学もある<sup>4</sup>。

### 2.1.1.4 最近の教育に関しての一般的動向

a) 就学・進学率に関して 高等教育に進学する生徒が増え、普通高校ではほぼ100%の生徒が進学している。
b) 水準に関して 2003年「国際教育到達度 OECD PISA IEA」評価学会の国際学力調査で、ベルギーは科学の11位を除いて全て世界10位以内であった。共同体ごとに結果を見ると、オランダ語共同体は、全ての科目で上位5位に入っており、特に、数学では世界第1位を占め、フランス語共同体の学校とオランダ語共同体の学校の学力差が問題となっている。

<sup>3</sup> 2003～2003年度中等教育で各学年で留年している学生の割合 (クラスの中で一般生徒より年上の生徒)

1年生 19.8% 2年生 23.6% 3年生 27.9% 4年生 31.1% 5年生 36.2% 6年生 37.2% 平均 28.9%

<sup>4</sup> ルーヴェン・カトリック大学 (<http://www.kuleuven.ac.be/english/admission/language.htm>)

**c) 履修科目に関して**

小学校では履修科目が決まっているが、中等教育では必修科目と選択科目がある。70～80年代に増えた選択科目は、主に予算の問題で90年代以降減る傾向にある。ただし、言語教育は例外で、四つ目の学習言語が以前は、ドイツ語だけであったが、現在は、イタリア語、スペイン語と選択の幅を広げている。また、履修時間は、数学、科学の時間数を増やしている。高等教育では2004年からの欧州単位相互認定制度導入後、選択の幅が広がると見られている。

**d) 試験制度に関して**

現状の制度が点数偏重主義であるとの批判があり、最近の動向として、授業では自主学習を重視し、何を知っているかではなく、何ができるかを評価することによって“Leren leren（学ぶことを学ぶ）”という考え方になってきている。特に、職業高校でその傾向が強い。

**e) 財政に関して**

慢性的な予算不足のため、公立機関に対する政府の補助金とカトリック立も含めた私立機関に対する補助金額の差が問題となっている。しかし、教育はすでに共同体予算全体の50%を占めており、増加させるのは難しく、逆にほかの部門で予算が欠乏すると教育予算が削られる可能性もあることが懸念されている。

**f) 教師、教員に関して**

中等教育の教員が首都ブリュッセル行政地区で、小学校の教員はベルギー全土では不足していて、キャンペーンが実施されている。特に、質が高く、動機付けの強い教師が減少している。

**g) ヨーロッパ内の移動に関して**

中等教育では2週間程度の生徒の交換滞在（例：イタリア、ポルトガル）の機会、あるテーマに関しての討論会などのプロジェクトがある。主に、普通高校で行われている。

高等教育ではエラスムスを利用した学生・教官の移動が盛んであり、2004年度からボローニャ・プロセスに基づき導入される高等教育システムを利用すると、単位の相互認定ができるため、学生がベルギーに限らず、欧州レベルで自分の専門の教授のいる他大学で単位を取り、登録大学で学位を取得することも可能になる。一方、教官も他大学で教える機会が増え、人の移動はますます増大することが考えられる。

**h) その他**

ICT教育を奨励している。現在、中等教育機関に15人に1台、インターネット接続のあるコンピュータがある。この数は欧州議会が行った実情調査の結果の平均より多少多い数になっている。そして、中等教育のカリキュラムにはICTを用いた授業を組み入れている。

その内容は、プレゼンテーション機能、プロジェクト機能、コミュニケーション機能のスキルとしてソフトの使い方を学ぶ。また、会計や設計等、専門に必要なテクニカル機能としての指導もある。語学教育では異文化、外国語の理解を深めるため他国の学校との電子メールのやりとりが行われているところもある。

## 2.1.2 言語教育

### 2.1.2.1 CEF に関して

a) 外国語教育政策に CEF が取り入れられているか。何かの公式な文書に触れているか。  
2001 年 2 月にベルギー・オランダ語共同体から出された成人向け言語教育のための “Adult Education Modern Languages Training Profiles” に記載されている。  
教育省が出した中等教育のガイドラインで CEF に触れており、検討の結果、中等教育ではカリキュラムには取り入れないとしている。(2.1.2.4 参照)

b) 実際に CEF がレベル記述、評価、シラバスなどに取り入れられているか。  
成人語学教育のレベル記述に取り入れられ、共同体から予算が出ている成人教育機関ではこの記述に準じてカリキュラムを立てなくてはならなくなった。  
Level 1.1 : A1 (Breakthrough)  
Level 1.2 : A2 (Waystage)  
Level 2 : B1 (Threshold)  
Level 3 : B2 (Vantage)  
Level 4 : C1 (Effective Operational Proficiency)  
ある機関では、日本語のものも含め、12 か国語のカリキュラムができており、それに基づく教科書の開発も進んでいる。

第 2 言語としてのオランダ語能力認定試験のレベル記述に取り入れられている。  
Certificaat Nederlands als Vreemde Taal (Certificate of Dutch as a foreign Language)  
4 levels/profiles:  
1) Profiel Toeristische en Informele Taalvaardigheid (PTIT) = Waystage (Level A2)  
2) Profiel Maatschappelijke Taalvaardigheid (PMT) = Treshold (Level B1)  
3) Profiel Professionele Taalvaardigheid (PPT) = Vantage (Level B2)  
4) Profiel Academische Taalvaardigheid (PAT) = Effective Operational Proficiency (Level C1)  
また、中等教育・成人教育で行われているフランス語能力試験のレベル記述に取り入れられている<sup>5</sup>。

c) 最近の動向  
オランダ語共同体から予算が出ている成人教育機関だけでなく、それ以外の成人教育の機関でも、CEF への関心が高まっている。  
今後、高等教育制度改革によって単位の相互認定がされると、選択科目として日本語を認めている機関の教員にも CEF に対する関心が広がる可能性がある。  
中等教育においては、CEF のカリキュラムへの導入は行われていないが、EU が行った “Excellent-project” に参加したある普通高校では、フランス語・英語教師が CEF に関するワークショップで、CEF を具体的に活用したプラン作成、評価方法などについて学び、現在もシラバス作成に参照するなど、比較的に前向きに受け入れられている。一方、職業科高校では、あまり紹介されていない。

### 2.1.2.2 ELP に関して

a) 外国語教育政策に ELP が取り入れられているか。何かの公式な文書に触れているか。  
オランダ語共同体認可の成人教育向け (16 歳以上) ELP が作成され、公表されている。義務付けるなど政策には、取り入れられていない。

b) 実際に ELP が学習、評価などに取り入れられているか。  
機関として取り入れられている場合はない<sup>6</sup>。

<sup>5</sup> Test de connaissance du Français <http://www.ciep.fr/delfdalf/index.htm>

<sup>6</sup> 主な理由として、下記のことが挙げられた。

記入作業が多く煩雑な作業が増える。その反面、ELP の活用法の一つと挙げられている就職活動には価値が見出されていない。自己判断書より、従来の履歴書、推薦状のほうが重視されている。

**c) 最近の動向**

ルーヴァン・カトリック大学経済学部における選択科目の英語教育で ELP が用いられている。そこでは自己評価に基づき、学習方法、学習項目、学習時期を学習者が決定し、自律学習によって、言語能力を高めていく教育を行っている。

**2.1.2.3 初等教育での言語教育**

オランダ語共同体の学校における言語教育に関して：

キーワードを “Communicatie” (Communication) と設定し到達目標として次の三つの項目を挙げている。

- ・実際に運用できる能力を身につける
- ・外国人とコミュニケーションがとれる能力を身につける
- ・外国人とコミュニケーションをとりながら、異文化への視野を広げる

上記に基づき、初等教育・中等教育ともに各言語、各学年、4 技能ごとに目標と終了時の運用能力が記述されている。

**a) 履修可能言語**

5 年次より第 2 国語としてフランス語が必修。ただし、ブリュッセル行政地区、ブリュッセル周辺の両言語併用地区では 3 年次より第 2 国語としてフランス語が必修である。

**b) 達成目標、基準、試験**

4 技能別に記載されている。週平均 4～6 時間の授業で ICT も多く導入されている。CEF/ELP の取り入れはない。

**2.1.2.4 中等教育での言語教育****a) 履修可能言語**

フランス語：1 年次から 6 年次まで必修科目。生徒の履修に応じて週 3～5 時間

英 語：2 年次から 6 年次まで必修科目

ド イ ツ 語：4 年次から選択科目に組み入れられている

スペイン語：5 年次から選択科目に組み入れられている

イタリア語：5 年次から選択科目に組み入れられている

**b) 達成目標、基準、試験**

4 技能別に記載されている。CEF/ELP はカリキュラムに取り入れられていない。その理由として、中等教育における語学教育の目標は、コミュニケーション能力の向上だけでなく、高等教育への橋渡しも含まれており、CEF/ELP は内容がそぐわないとしている。ただし、言語能力試験は CEF 基準が取り入れられている試験を実施している。

**2.1.2.5 その他の教育現場での言語教育****a) 履修可能言語**

成人教育で言語教育が盛んである。特に、非オランダ語母語話者へのオランダ語教育、第 2 国語であるフランス語教育、外国語としての英語教育に力が入れている。

**b) 達成目標、基準、試験**

達成目標、基準、試験は CEF に準じている (2.1.6 参照)。

### 2.1.2.6 (語学) 教員の公的制度：資格認定、養成、研修

- ・初等教育・中等教育：教員免許が必要。単科大学・大学で取得する。
- ・高等教育：修士号が必要。
- ・公立成人教育機関：EU内の機関で取得した免許・学位。
- ・外国人教官に関して：
  - － EU内の機関で免許・学位を取得した場合、通常、その免許・学位が認められる。
  - － EU外で資格・学位を取得した場合、その学位の認承制度がある。それはEUがエラスムス・ソクラテス制度を制定した折設立されたNARIC-Networdの中のNARIC-Vlaanderenが承認手続きを行っている。初等教育・中等教育の教官はオランダ語共同体教育省が判断するが、高等教育については、複数のオランダ語共同体にある大学の教授の証明を受け、オランダ語共同体教育省から承認が下りる。
  - － オランダ語非母語話者教官には1970年11月25日付け王立法令(Royal Decree)により、3段階にレベル分けされたオランダ語の試験に合格しなければならない。主に勤務開始から3年後に受験する。

## 2.1.3 日本語教育

### 2.1.3.1 最近の動向

- ・教育省が成人教育の語学カリキュラムにCEFの取り入れを義務付けたため、成人教育語学学校で新しいコースカリキュラムが作成された。日本語のカリキュラムも作成され、それに関して成人教育に携わっている教員の会議ももたれている。(2.1.6参照)
- ・オンラインの日蘭辞書の開発が進められている。
- ・日本語の学習動機として、マンガ、ファッション、音楽、アニメ、武道(柔道など)を挙げる学習者が増加し、大学でも卒業論文のテーマとして上記の事柄を選択する学生も出てきた。それにともない、マンガ、アニメなどを活用した授業の可能性について検討が始まっている。一例として、ルーヴァン・カトリック大学では現代文化指導と日本語指導を念頭に置いたマンガに関するサイト<sup>7</sup>の構築の試みがある。
- ・上記の事柄から社会的に日本への関心が高まってきたこと、日本企業が現地化を進めていることから、日本語の夜間クラス、企業派遣の日本語授業が増えてきている。また、オランダ語共同体では2.1.2.6の教員雇用制度から、機関がオランダ語母語話者教員を希望する傾向があり、日本人母語話者の教官が少なく、オランダ語話者の教師が増加している。
- ・高等教育機関では、ボローニャ・プロセスによって単位制度が導入されると、日本語だけ履修することが可能になり、学生が日本語を専門科目や選択科目として学習し多様性が出てくるのではないかと考えられている。それにともない、妥当性のあるレベル分け試験、学年別のクラスではなく学習者の言語能力によってクラス編成を行うモジュールコースの編纂の必要性が認識され始めている。

<sup>7</sup> <http://akira.arts.kuleuven.ac.be/hc/manga>

## 2.1.3.2 日本語教師の団体

日本語教育／教師の団体 問い合わせ先	対 象	人 数	備 考
ベルギー日本語教師会 http://akira.arts.kuleuven. ac.be/bnk/	日本語教育に 携わる者・興 味がある者	32人 (2004年/11月 現在)	・年1回～2回の日本語教育 ワークショップ開催 ・2か月に1回勉強会実施 ・語学教育関連の催し企画運 営、または参加 ・学習者向け「日本語話そう 会」主催

## 2.1.3.3 日本語の教員

	資格・背景	地位／処遇	日本語教員養成・研修
初等	なし		
中等	なし		
高等	欧州の大学の修士号を有するもの EU外で学位・教職免許を取得し た場合は認可手続きが必要(2.1.2.6 参照)	専任講師 非常勤講師	上記教師会のワークショップ・ 勉強会 国際交流基金の教師研修
その他 成人	公立校：共同体の大学の学位を有 するもの。EU外学位・教職免許 を取得した場合は認可手続きが必 要(2.1.2.6参照)。 私立：機関によって異なる	専任講師 非常勤講師	

## 2.1.3.4 その他

	制度／機関	期 間	備 考
日本留学	高等教育機関では機関ごとに大学間協定を結んで行っ ている。 文部省の奨学金制度 JETプログラム プライベート機関による交流(例：ロータリークラブ)	3週間から 1～2年	プログラム によって
日本との 交流	姉妹都市提携有り Hasselt & 伊丹市 Gent & 金沢市	交換留学制 度がある	
日本語関係行事(スピーチ、 能力試験など)	年に1回日本語スピーチコンテストが行われている。		

## 2.1.3.5 日本語教育における問題点、要望、今後の展望

オランダ語共同体では言語教育が重要視されており、ヨーロッパの国々とのレベルの統一、カリキュラムの標準化が進められている。日本語教育は高等教育・成人教育で行われているが、上記共同体の動きにともない、日本語のカリキュラムも新しく作り直されている。その意味において日本語教育はオランダ語共同体の言語教育で安定した地位にあると言える。

また、日本語教育の新しい動きとして2.1.3.1で述べたように、学習者の増加と興味の変化、

企業を含めた社会の要望に応じたシラバス作り、オランダ語母語話者の教員の増加という状況がある。

こういった状況を考慮するに、新しい言語観、教育理念に基づく教育課程の構築、日本語教員養成・指導が必要であるが、そのためには、教材、情報がまだ不足し、十分とはいえない。日本語教員の中には、社会的地位が不安定で、日本語を教えることだけでは生活できずに他の仕事にも同時に従事している人もおり、教室活動の向上のため時間を割く余裕がない場合が多い。従って、以前、国際交流基金が実施していた欧州巡回セミナーのようなものが開催されると、日常業務を調整して参加することも可能であり、この実施が望まれている。

さらに、現在、オランダ語母語話者向けの日本語教科書はまだ出版されていないが、2004年2月に行われたオランダ語共同体で日本語教育に従事している教師の初回の集まりでは、今後の目標としてCEFに基づいた教科書の開発の必要性が確認された。すでに教育省の承認を受け実用に向けてプログラム作りがされているCEFの参照レベルに基づく日本語のカリキュラムや、ルーヴァン・カトリック大学で開発中のオンラインのオランダ語／日本語辞書が、その教科書開発の一助になると思われる。

一方、現在、初等教育・中等教育での日本語教育がまだ行われておらず、関係者の間でその開設が希望されている。

#### 2.1.4 情報源

オランダ語共同体 教育省ホームページ

<http://www.ond.vlaanderen.be>

・オランダ語共同体 教育開発部

<http://www.ond.vlaanderen.be/dvo/>

・オランダ語共同体 教育省 統計資料

<http://www.ond.vlaanderen.be/onderwijsstatistiekken/2002-2003/stat.%20jaarb.03deellhdstl.pdf>

・初等教育フランス語指導基準

<http://www.ond.vlaanderen.be/dvo/basisonderwijs/lager/eindtermen/frans.htm>

・ICT

<http://www.ond.vlaanderen.be/ict/>

・中等教育現代語教育指導基準

[http://www.ond.vlaanderen.be/dvo/secundair/specifieke\\_eindtermen/aso/modernetalen.htm](http://www.ond.vlaanderen.be/dvo/secundair/specifieke_eindtermen/aso/modernetalen.htm)

・NARIC-Vlaanderen

<http://www.ond.vlaanderen.be/hogeronderwijs/interna/naric/>

・学位承認

<http://www.ond.vlaanderen.be/hogeronderwijs/interna/naric/aca-gelijkwaardigheid.htm>

・オランダ語共同体の承認済み成人教育向け（16歳以上）ELP

<http://www.ond.vlaanderen.be/dvo/volwassenen/taalportfolio/index.htm>

・非オランダ語母語教師のオランダ語試験についての情報

<http://www.ond.vlaanderen.be/edulex/database/document/document.asp?docid=12389>

<http://www.ond.vlaanderen.be/edulex/database/document/document.asp?docid=13188>

「国際教育到達度 OECD PISA IEA」評価学会の国際学力調査 2003 年の試験結果

[http://www.pisa.oecd.org/document/55/0,2340,en\\_32252351\\_32236173\\_33917303\\_1\\_1\\_1\\_1,00.htm](http://www.pisa.oecd.org/document/55/0,2340,en_32252351_32236173_33917303_1_1_1_1,00.htm)

教員キャンペーン

- ・首都ブリュッセル行政地区

<http://www.leerkrachtinbrussel.be>

- ・オランダ語共同体

<http://www.ond.vlaanderen.be/leraren>

第 2 言語としてのオランダ語能力認定試験

<http://www.cnavt.org/main.asp>

- ・レベル 1 記述 =Waystage (Level A2)

<http://www.cnavt.org/files/3a=ptitprofil.pdf>

- ・レベル 2 記述 =Treshold (Level B1)

<http://www.cnavt.org/files/3b=pmtprofil.pdf>

- ・レベル 3 記述 = Vantage (Level B2)

<http://www.cnavt.org/files/3c=pptprofil.pdf>

- ・レベル 4 記述 =EffectiveOperationalProficiency (Level C1)

<http://www.cnavt.org/files/3d=patprofil.pdf>

姉妹都市提携

- ・Hasselt 市、伊丹市

<http://www.trabel.com/hasselt-japanesegarden.htm>

- ・Gent 市、金沢市

<http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/sister/city/ghentj.htm>

## 2.1.5

### ベルギーにおけるボローニャ・プロセスと言語教育への影響

櫻井直子

ベルギーの高等教育機関はオランダ語共同体、フランス語共同体にあり、ボローニャ宣言(1.2 参照)にもそれぞれの共同体の高等教育担当大臣が署名を行い、その実施も各共同体がその方針に従って行っている。実施形態は、学位の名前である Bachelor (バチュラー) と Master (マスター) の頭文字をとり、BaMa 制度と呼ばれている。両共同体とも高等教育機関の行政管轄に基づくグループを形成し、2004 年 9 月から Bachelor 課程が実施され、その 1 年生が 4 年目になる 2007 年から Master 課程が開始される。本稿では、各共同体がボローニャ・プロセスをどのようにベルギーの教育制度の中に取り入れたかについて述べ、また、オランダ語共同体にあるルーヴァン・カトリック大学<sup>1</sup> の例を挙げ、この制度のコース課程、言語教育への影響を観察する。

#### 1. オランダ語共同体でのボローニャ・プロセス

オランダ語共同体には四つの総合大学と、そのほか多くの Hogescholen (ホーフスクール) と呼ばれる日本では単科大学にあたるものがある。従来、多くの高等教育機関は 4 年間の課程で、前半 2 年の Kandidaat (カンディダート) 学位課程、後半 2 年の Licentiaat (リソシアート) 学位課程からなり、その後は Doctraat (ドクトラート) に進む形態をとってきたが、これからはボローニャ宣言に沿って、欧州単位相互認定制度 (ECTS) を採用し、3 年間の Bachelor 課程、その後を Master 課程とする変革を進めている。

まず、総合大学と単科大学がそれぞれ授与していた学位をどのように位置づけるかが検討され、3 年間、合計 180 単位 (各年 60 単位) で取得できる Bachelor は総合大学、単科大学、全ての高等教育機関で授与することとした。そして、その後の Master は一部の単科大学のコースを除き<sup>2</sup>、総合大学で授与することとした。また、学生が Bachelor 取得後 Master 課程への進学が容易にできるように、Master と Doctor を授与できる総合大学 1 校と、Bachelor のみ授与できる単科大学数校をいっしょにして五つの Associatie (アソシアーシ) といわれる大学連合を形成することになった。

連合名、および構成大学数 (総合大学・単科大学含む) は次のとおりである。

・ルーヴァン・カトリック大学 (オランダ語共同体) 連合<sup>3</sup> :

ルーヴァン・カトリック大学 (オランダ語共同体)、および、カトリック系の 12 大学

・アントワープ州総合 / 単科大学連合<sup>4</sup> :

アントワープ州にある 5 大学

<sup>1</sup> Katholieke Universiteit Leuven <http://www.kuleuven.ac.be>

なお、ルーヴァン・カトリック大学とブリュッセル自由大学はオランダ語圏とフランス語圏それぞれにあり、同じ名称であるが、それぞれ全く独立した機関である。

<sup>2</sup> 単科大学の中には生産管理工学技術者、建築技師の資格が取れるものもあり、Master 資格が授与される。

<sup>3</sup> vzw.Associatie K.U.Leuven、<http://associatie.kuleuven.be/>

<sup>4</sup> vzw.Associatie Universiteit in hogescholen Antwerpen [http://www.associatie-antwerpen.be/main.asp?c=\\*AA](http://www.associatie-antwerpen.be/main.asp?c=*AA)

- ・ゲント大学連合<sup>5</sup>：  
国立ゲント大学、および、西フランダース州にある3大学
- ・リンブルグ州総合/単科大学連合<sup>6</sup>：  
リンブルグ州にある4大学
- ・ブリュッセル行政地区大学連合<sup>7</sup>：  
ブリュッセル自由大学（オランダ語共同体）、首都ブリュッセル行政地区にある1大学

一方、Master 取得に必要な単位数に関して、高等教育機関で議論が巻き起こった。前述のように、ほとんどの機関は現在合計4年間のプログラムを実施しており、ボローニャ宣言で提唱されている3年間のBachelor 課程と2年間（120単位）のMaster 課程を導入すると、以前よりMaster 取得までに1年多くかかることになる。このことは、学生に不利であるとして、オランダ語共同体の教育大臣は、Master を60単位、1年間で取得可能にする方針を打ち出した。これに対して、オランダ語共同体の高等教育機関は学長レベルで協議を行い、教育レベル維持の観点から抗議文を提出し、結局、学科によって1年または2年でMaster を授与する方針で改革が進められることになった。そして、2005年の早い時期に、教育大臣から正式にオランダ語共同体高等教育機関のMaster 課程を2年にする方針が打ち出されると見られている。

教育課程内容に関しては、各学科で審議決定し、大学当局の査定を受けて承認された後、共同体教育省の認可を得るものとし、大学内部の主導権は保持されることになった。そして、2004年度からECTSを採用し、Bachelor 課程を開始した。その学生がBachelor を取得する2007年からMaster 課程を実施することとなっている。

BaMa 制度の実施はトップダウン式の行政改革で、総合大学の中にはルーヴァン・カトリック大学（オランダ語共同体）のように前向きな機関と、ゲント国立大学のように積極的でない機関があり、全く問題なく行われているわけではない。教員と学生による反対運動があり、何度かデモがあった。反対の最も大きな理由は、この制度導入によって高等教育機関のプログラムは各共同体の承認を得なくてはならなくなり、それによって機関の独自性、個別性が失われることである。つまり、ボローニャ・プロセスはヨーロッパ内の大学の学位が等価になり、相互認定ができることであるので、それぞれの高等機関のプログラムが適正であるか判定が必要になったからである。また、ブリュッセル行政地区大学連合の総合大学であるブリュッセル自由大学（オランダ語共同体）では、その理由とは別に、連合結成によりこの総合大学のみ現在の大学名が連合名として残らないことが教官や学生の気持ちに大きく影響を及ぼし、民主的な教育に反するものとして何度もデモがおきた。

## 2. フランス語共同体でのボローニャ・プロセス

フランス語圏には三つの総合大学とそのほか多くのHaute école（オートエコール）と言われる単科大学がある。従来の学位は、オランダ語共同体と同じく、4年課程で、2年間のCandidature（カンディダチュール）学位課程と、2年間のLicence（リサンス）学位課程からなる。また、Candidature 取得後、すぐにLicenceに進まず、専門以外にもう一つ、別の

<sup>5</sup> vzw Associatie Universiteit Gent, <http://www.augent.be/>

<sup>6</sup> vzw Associatie Universiteit - Hogescholen Limburg (AUHL)

<sup>7</sup> vzw Universitaire Associatie Brussel, <http://www.vub.ac.be/associatie/>

専門を修学したい学生には、オプションとして1年コースのDEC (diplôme d'études complémentaires : ディプロム・デチュッド コンプレマンテール) がある。また、2年間のLicenceの間に、専門の研究をさらに深めるためDES (diplôme d'études spécialisées : ディプロム・デチュッド・スペシャリゼ)、あるいは、DEA (diplôme d'études approfondies : ディプロム・デチュッド・アプロフォンディ) というコースがオプションとして設けられている。Licenceのあとは、博士論文執筆を目的とするDoctrat (ドクトラ) がある。その学位形態を、ボローニャ宣言に基づき、3年のBachelor、1～2年のMaster、その後Doctorに変革するよう教育課程の編纂が進んでいる。Master課程の長さに関しては、フランス語共同体教育大臣もオランダ語共同体と同様、Bachelor 180単位、Master 60単位を提唱したが、ルーヴァン・カトリック大学 (フランス語共同体)、ブリュッセル自由大学 (フランス語共同体) はMaster課程を2年にするとし、現在、1年または2年のMasterという形で進んでいる。そして、Bachelor課程は2004年9月から、Master課程はその学生がBachelorを修了する2007年から開始されることになっている。

その形態は、オランダ語圏共同体と同様、BachelorからMasterへの進学を容易にすることを目的とし、Master取得が可能な三つの総合大学を中心に、大学区 (academie : アカデミー) と呼ばれる高等教育機関のグループを形成するものである。10の大学と30ほどの単科大学が三つの大学区に分けられている<sup>8</sup>。

大学区名と各区の総合大学名は次のとおりである。

・「ルーヴァン」大学区<sup>9</sup> :

ルーヴァン・カトリック大学 (フランス語共同体)、および、その他3大学と複数の単科大学

・「ワロニー - ブリュッセル」大学区<sup>10</sup> :

ブリュッセル自由大学 (フランス語共同体)、および、その他2大学と複数の単科大学

・「ワロニー - ヨーロッパ」大学区<sup>11</sup> :

国立リエージュ大学、および、その他2大学と複数の単科大学

この制度実施については、フランス語共同体でも反対運動がある。主な理由として、まず、大学区の実施によって教育課程の統一化が必要となり、それによって、各機関の個性、教育課程の独自性がなくなり、単一化してしまうことがある。また、高等教育欧州圏の形成により大学間の競争も起きるため、レベルの高い教育課程を提供し、学術的なレベルを上げることより、学生を多く集めることに専念する機関が出てくることを懸念していることが挙げられる。さらに、現行学位の廃止などへの反対もあり、総合大学、単科大学などで反対デモがあった。2003年12月11日にはルーヴァン・カトリック大学 (フランス語共同体) で教官、学生共同のデモが実施され、その後、教育大臣との話し合いがもたれた。また、2004年12月1日にはリエージュ大学の約50人の教授がボローニャ宣言に基づく高等教育改革は、フランス語共同体で唯一の公立大学であるリエージュ大学に大きく不利益をもたらし、その結

<sup>8</sup> Académies universitaires, <http://www.cfwb.be/ciuf/information/academies.html>

<sup>9</sup> Académie universitaire 'Louvain', <http://www.adcp.ucl.ac.be/presse/communiqués/academie6-2004.html>

<sup>10</sup> Académie universitaire Wallonie-Bruxelles, <http://www.ulb.ac.be/academie/index.html>

<sup>11</sup> Académie universitaire "Wallonie-Europe", <http://www.ulg.ac.be/presse/communiqués/academieulg.html>

果、「ベルギー憲法に反する」として法廷に訴えるという決議をした。

### 3. ボローニャ・プロセスの教育課程への影響

ボローニャ・プロセスの教育課程への影響の一例としてルーヴァン・カトリック大学（オランダ語共同体）について述べる。この影響は学部内の変化と、他学部、他国大学との共同課程の構築という二つに分けられる。

#### a) 学部再編成

新システム導入にともない新しい学位制度、単位制度を取り入れるだけでなく、これらを利用して大学全体の学部の再編成が行われた。文学部では、従来、専門言語によって、ロマンス語学科、ゲルマン語学科、ラテン・ギリシャ語学科、古代東方学科、アラビア・イスラム学科、中国学科、日本学科、東洋スラブ学科に分けられていて、学科によって履修できる言語が決められていた<sup>12</sup>。それを、専門内容に応じて、言語文学科、言語地域研究学科と二つに分け、言語履修方法も変更された。つまり、言語文学科では単位制度を利用して、専門に関わらず履修言語は、オランダ語、フランス語、英語、ラテン語、ドイツ語、ギリシャ語、イタリア語、スペイン語から自由に選択できることとし、言語教育に柔軟性を持たせ、学習者の必要と興味に応じて言語を学習できるようにした。一方、言語地域研究学科は、アラブ・イスラム学専攻課程、日本学専攻課程、エジプト・メソポタミア学専攻課程、中国学専攻課程、スラブ・東欧学専攻課程に分かれ、それぞれの課程ごとに言語が専門科目として定められている。日本語に関しては、日本学専攻課程の必修専門科目であり、新システム導入後も変化はない。ただし、単位相互認定制度が導入されることにより、他学部や他大学の学生が日本学専攻課程の学生としてではなく、日本語だけ履修することが可能になり、学生の多様性が出てくるのではないかと考えられている。それにともない、妥当性のあるレベル分け試験、学年別のクラスではなく学習者の言語能力によってクラス編成を行うモジュールコース導入の必要性が認識され始めている。

文学部に限らず、他学部でも再編成作業が行われたが、文学部、言語文学科と同じように、単位制度を活用して、言語の選択を増やし、学生自身が学習言語を決められるようにする傾向にあると言える。例えば、経済学部では、従来1～3年が英語、2～4年はフランス語が必修科目と決められ、オプションとして4年次にドイツ語かスペイン語が履修可能となっていた。それが、新学位制度導入開始の2004年度からはBachelor 1～2年生は英語とフランス語が必修で、同時にドイツ語またはスペイン語が選択科目として履修でき、Bachelor 3年生とMaster 1年生では英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語のすべてが選択科目となり、その中から2言語履修することになった。

#### b) 他学部・他大学との共同課程の構築

他の学部のMaster課程への進学が容易になる、他国の大学の科目を登録大学の科目として履修可能になるといった可能性が高くなり、今後いろいろな意味での流動性が高くなると見られている。例えば、言語地域研究学科の日本学専攻課程では、副専攻として経済学が選択できるようになっているが、BaMa制度実施後、日本学専攻課程Bachelorを取得した学生は、そのまま経済学部のMaster課程に進むことができ、その履修科目に応じて、Master

<sup>12</sup> 例えば、ロマンス学科はフランス語、スペイン語等、ゲルマン語学科は英語、オランダ語、ドイツ語など

van Bedrijf economie (経営学修士)、Master van Bleids economie (経済政策学修士) の学位が取れるようにする方向で学部間の話合いがもたれている。

国内だけでなく、国を越えた大学間での動きもある。他国の大学の科目を登録大学の科目として履修可能にするために、日本学科を持つ大学の学部長、学科長が欧州レベルの話合いを進めている。特筆に値することとして、2004年12月8～9日にオランダのライデン大学で“Congress on the Internationalization of Non-Western Studies (非西洋研究の国際化に関する学術大会)”があり、講演、発表、ワークショップが企画され、30余りの大学から参加があった。この大会の目的はヨーロッパの高等教育機関の交流、協力を推進するために“European League for Non-Western Studies in Europe (ヨーロッパにおける非西洋学問のヨーロッパリーグ)”の構築の可能性を探ることであり、会期中に専門別に会議が行われ、大学間の協力体制に関して話合いが持たれた。日本学に関してはルーヴァン・カトリック大学(ベルギー・オランダ語共同体)、ライデン大学(オランダ)、ハイデルベルグ大学(ドイツ)、オックスフォード大学(英国)からの代表が集まり、“International Joint MA Program (国際共同修士課程プログラム)”として学生と教官の交換体制、共同研究などの協力体制について話し合われ、覚書に署名した<sup>13</sup>。2005年12月には第2回大会がルーヴァン・カトリック大学(ベルギー・オランダ語共同体)で開催される予定になっており、さらに具体的なことが明確にされ、リーグへの参加大学も増えると思われる。

このような他大学との共同プログラムが可能になるのも学位の透明化が進められ、単位を相互認定できるからであるが、そのほかに財政的な側面からの理由もある。それは、ボローニャ・プロセスに基づく学位課程の改革が進むにつれて2年間のMaster課程が主流になりつつあることから生じている。他国同様ベルギーにおいても2年間のMaster課程を考えなければ、ヨーロッパで通用する学位の質が確保できないとして、2年間のMaster課程導入の必要性が大学学長をはじめとする関係者から出されているが、教育課程が1年間増えることによる予算の増加が今のところ見込めず、現状の教官でやりくりせざるを得ない状況である。そこで、1年間本母校で授業を受け、もう1年を他大学(日本の大学も視野に入れている)で受け、単位を取るということが考えられたのである。そして、Master課程の種類もMaster1年課程、Master2年課程(本母校+日本/欧州の他大学)、MasterPhil3年コース(本母校+欧州他大学+日本の大学)というように多様性を持たせる方向が提案され、検討されている。

このように各大学とも、ボローニャ・プロセスを進めているが、Master課程に関してはさまざまな可能性を模索しており、ボローニャ・プロセスの結果および評価は、現在のBachelor1年生が卒業する2008年を待たなければならないであろう。

<sup>13</sup> Memorandum of Understanding for Co-operation and Exchange in the framework of a Network of European Universities for Co-operation in the field of non-Western studies” 署名は学部長、学科長の参加があったルーヴァン・カトリック大学(ベルギー・オランダ語共同体)、ライデン大学(オランダ)、ハイデルベルグ大学(ドイツ)の3大学が行った。

## 2.1.6

## ベルギー・オランダ語共同体、成人言語教育における CEF の導入

櫻井直子

ベルギー・オランダ語共同体では成人向け言語教育のガイドライン “Adult Education Modern Languages Training Profiles (成人教育現代語学習概要：以下 Profiles)<sup>1)</sup>” が 2001 年 2 月に出された。この Profiles には、言語能力レベルが技能別に細かく記載され、そのレベルは、CEF の参照レベルに基づいている。現在、この共同体内にある成人教育の各言語教育機関はコースプログラムを Profiles にあわせ再構成している。本稿では、Profiles が出された経緯と内容、Profiles をもとに作られた言語カリキュラムの作成例を述べ、CEF の言語教育への浸透を概観したい。

## 1. “Adult Education Modern Languages Training Profiles” の作成経緯

ベルギー・オランダ語共同体では、以前から、成人教育の質の向上が求められてきた。そして、ヨーロッパの今の動向である「欧州市民の移動性 (mobility) と、就職の可能性 (employability) の促進と生涯教育の奨励」を念頭に置き、1999 年 3 月 2 日、ベルギー・オランダ語共同体教育省から、成人教育に関する法令 (Adult Education Decree) が出された<sup>2)</sup>。この法令は、成人教育の教育機関制度、教官雇用制度等の運営面から、教育レベル等の教育内容に関わるものまで、全般にわたる事柄を細かく規定したものである。そこには、成人教育の中心的目的の一つとして「言語をマスターするために必要な知識、技能、および、姿勢を学習者に提供する (4 条)」と明記されている。さらに、言語教育は二つの分野、つまり、一般外国語教育と第 2 言語としてのオランダ語教育からなり、いずれの分野も Richtniveau (リヒトニヴォー) と呼ばれる指標によって段階分けされると記載されている。Richtniveau は英語では Guide Level と訳されている。この法令に基づき、教育省関係者、成人言語教育機関校長、語学教師などから構成される成人言語教育委員会が設置され、その結果として Profiles が作成された。

## 2. “Adult Education Modern Languages Training Profiles (成人教育現代語学習概要)” の内容

Profiles は 2001 年 2 月に出されたが、その能力記述文は、CEF を参照して「～ができる」という書き方が用いられ、Richtniveau レベル 1～4 の段階ごとに記載されている。表 1 は CEF 参照レベル、成人教育に関する法令、および Profiles のレベルを並べて記載したものである。

<sup>1)</sup> Adult Education Modern Languages Training Profiles 購入情報も記載  
<http://www.ond.vlaanderen.be/publicaties/database/publicatie.asp?nr=106>

<sup>2)</sup> “Decreet van 2 maart 1999 tot regeling van een aantal aangelegenheden van het valwassenenonserwijs en diverse uitvoeringsvesluiten” (1999 年 3 月 2 日付け法令 成人教育とさまざまな実施に関する規則、および、いくつかの要件)

表1 CEF 参照レベル、ベルギー・オランダ語共同体法令、Profiles の言語能力レベル対応表  
 (“Modern Languages Training Profiles” p.13 : 1.2、p30 ~ 32 : 4.2 ~ 4.5 参照し筆者作成)

CEF Common Reference Level	Adult Education Decree	Modern Languages Training Profiles	
		Module	Linear
Mastery C2	—	—	—
Effectiveness C1	Richtniveau 4	Module 4	1 or 2 years course
Vantage B2	Richtniveau 3	Module 3	1 or 2 years course
Threshold B1	Richtniveau 2	Module 2	2 or 3 years course
Waystage A2	Richtniveau 1.2	Module 1.2 <sup>3</sup>	1/2 or 1 year course
Breakthrough A1	Richtniveau 1.1	Module 1.1	1/2 or 1 year course

ベルギー・オランダ語共同体では、モジュール式コース (Modular organization) と年次コース (Linear organization) という2種類の言語コース形態があり、教育機関によって採用している形態が異なる。前者は教育内容が、モジュール (Module) という単位に分けられていて、学習者は、モジュールごとに学習するもので、後者は、コースが年度 (Linear) で区切られているものである。Profiles にはモジュール式コースと、年次コースと別立ての章を設け、各モジュール、各年次の Richtniveau ごとに習得言語能力を記述し、最低必要授業数<sup>4</sup>を定めている。ただし、CEF 参照レベルで Mastery (C2) にあたる Richtniveau は法令でまだ設定されておらず、Profiles にも記載はない。また、この Profiles のレベルは、一般外国語教育と第2言語としてのオランダ語教育<sup>5</sup>の双方を対象とするとしている。

CEF 参照レベルを参考にレベル設定を行った理由は、CEF がヨーロッパで一定の評価を得、浸透してきている現状を踏まえ、CEF を参照することにより、ベルギーの成人言語教育の修了証明書がヨーロッパ全域で認められるようになり、より価値の高いものにするためである。そして、学習者が他国に移動しても、就職の機会や、勉強の継続の機会を得ることができ、人の行き来が促進されることになる。さらに、一時学習を中断しても、再開することが容易になり、生涯教育の推進につながると考えるからである。

### 3. モジュール式コース (Modular Organization)

モジュール式コースは、学習内容に基づきコースの区切りが設定されているため、学習時

<sup>3</sup> Richtniveau 1 にあたる Module 1 は言語により 1.1 ~ 1.3、1.1 ~ 1.4 と分かれている。

<sup>4</sup> 授業のコマ数のことで、オランダ語で lestijden といひ英語には teaching period と訳されている。授業時間は1授業は50分と考えている。

<sup>5</sup> 第2言語としてのオランダ語教育 CEF に基づく初級コース授業カリキュラム：

[http://www.ond.vlaanderen.be/dvo/volwassenen/inhouden/sosp/talen/anderetalen/modulair1/NT2\\_niveau1\\_1.pdf](http://www.ond.vlaanderen.be/dvo/volwassenen/inhouden/sosp/talen/anderetalen/modulair1/NT2_niveau1_1.pdf)

[http://www.ond.vlaanderen.be/dvo/volwassenen/inhouden/sosp/talen/anderetalen/modulair1/module1\\_1\\_A.htm](http://www.ond.vlaanderen.be/dvo/volwassenen/inhouden/sosp/talen/anderetalen/modulair1/module1_1_A.htm)

期、学習場所を学習者が決定することができ、学習形態の柔軟性が増すことが特徴である。Profiles では、モジュール・レベルごとにコース開始時のレベル (Entry Level) とコース修了時のレベル (Exit Level) を記載し、モジュールの種類、履修方法にも言及している。表 2 はモジュール式コースの下位レベルを含む構成、授業数、CEF 参照レベルとの対応を一覧にまとめたものである。表 2 から分かるように、モジュールは Richtniveau に基づき 1～4 まで四つに分けられ、さらに下位分類されている。

ここで、特記すべきことは、Richtniveau 1 にあたる Module 1 の授業数の設定が言語によって違うことである。つまり、ヨーロッパ言語は Module 1 が二つのレベルに分けられ、各 120 授業数、計 240 授業数が奨励されているのに対して、「アラビア語、中国語、日本語」のグループでは四つのレベルに分けられ、その倍の 480 授業数としている。その理由として、中等教育でこれらの言語教育が行われていないこと、日常生活で習得する機会が少ないため全くの初心者として始める学習者が多いこと、ヨーロッパ言語と言語的に異なる言語であることなどが挙げられている。また、「ギリシャ語、ポーランド語、ロシア語、トルコ語」は、さらに別のグループになっており、その Module 1 の長さは 3 レベル、360 授業数である。言語グループによるもう一つの違いは、Module 1 と Module 2 は、全言語に設けられているが、Module 3 と Module 4 は、日本語、アラビア語、中国語、ギリシャ語、ポーランド語、ロシア語、トルコ語にはないことである。現状ではまだ必要性が低いのだが、今後の学習者の動向に応じ、再検討されるであろう。

次に、モジュールの種類について言及する。モジュールは、連続性のモジュールと、平行性のモジュールと呼ばれている二つの種類のモジュールからなっている。連続性モジュールというのは、前のモジュールと次のモジュールが積み上げ式のカリキュラムになっており、例えば、Module 1.1 が修了しなくては、次の Module 1.2 のレベルへは進めないといったものである。それに対して、平行性モジュールは、前のモジュールと次のモジュールが口頭能力・筆記能力といった技能別記述によって設定されている。例えば、Module 3.1 は Richtniveau 3 の口頭能力、Module 3.2 は Richtniveau 3 の筆記能力コースのため、どちらから先に履修してもかまわないことになる。Profiles においては、Module 1 と Module 2 は連続性のモジュール、Module 3 と Module 4 は平行性のモジュールで作成されている。したがって、Module 1 と Module 2 においては、技能別の能力は Module 1.1、1.2 の下位レベルごとにそれぞれ「話す-会話技術」「書く」「読む」「聞く」が記述されている。

表2 モジュール式コース (Modular Organization)

(“Modern Languages Training Profiles” p.41 ~ 197 を参照し筆者作成)

Richtniveau/ Module	適応言語	下位レベル	CEF との対応	授業数	モジュールの種類	
Richtniveau1/ Module 1	欧州言語	Module 1.1 ・会話技術 ・書く ・読む ・聞く	Breakthrough	120	連続性のモジュール： 積み上げ式で、下位 レベルごとに、4 技能 の能力が示され、例 えば、Module1.1 が習 得されてから 1.2 に進 むことができる。	
		Module 1.2 ・同様	Waystage	120		
	合計 240					
	ギリシャ語 ポーランド語 ロシア語 トルコ語	Module 1.1	Breakthrough	120		
		Module 1.2	Breakthrough & Waystage	120		
		Module 1.3	Waystage	120		
	合計 360					
	日本語 アラビア語 中国語	Module 1.1	Breakthrough	120		
		Module 1.2	Breakthrough	120		
		Module 1.3	Waystage	120		
Module 1.4		Waystage	120			
合計 480						
Richtniveau2/ Module 2	全言語共通	Module 2.1	Threshold	120	連続性モジュール	
		Module 2.2	Threshold	120		
		Module 2.3	Threshold	120		
		Module 2.4	Threshold	120		
Richtniveau3/ Module 3	欧州言語	Module 3.1 ・口頭能力	Vantage	120	平行性のモジュール： 下位レベルが技能別 になっており、どち らから始めてもよい。	
		Module 3.2 ・筆記能力	Vantage	120		
Richtniveau4/ Module 4	欧州言語	Module 4.1 ・口頭能力	Effectiveness	120	平行性のモジュール	
		Module 4.2 ・筆記能力	Effectiveness	120		

修了証明書は、下位レベルモジュール修了ごとに、教育省が定めたモジュール修了証明書が出され、一つの Richtniveau に必要なモジュールをすべて修了すると、Richtniveau 修了証明書が渡される。ただし、ヨーロッパ言語の Richtniveau 1 のみ、Module1.1 が Richtniveau1.1、Module1.2 が Richtniveau1.2 と対応しているため、上記とは異なる。

共同体はモジュール式コースを採用した場合、その教育機関のプログラムに縛られず、学

習者自身が、学習場所、学習時期が選択できるため、コース形態としてモジュール式コースを奨励している。しかし、運営面の利点から年次式コースを採用している教育機関も多い。

モジュール式コースと年次式コースのカリキュラムのレベル設定は表1のとおりである。さらに、Richtniveau 1の授業数、Richtniveau 3、4設定に関する言語による相違も同様である。つまり、両者の違いは、修了証明書の発行の仕方に現れている。モジュール式コースでは各Richtniveau修了時に教育省の証明書が受領できるのとは別に、下位レベルモジュール修了時ごとにモジュール修了証明書が教育省から出される。これはモジュールが教育省のレベル記述に基づいているからである。それに対して、年次式コースでは、年次学習項目は教育機関の裁量に任されているため、年次終了ごとに教育省の証明書は発行されず、Richtniveauが修了した際のみ、教育省の証明書が発行される。ただし、教育機関は、その機関の学年末試験に合格した学習者に対して、その機関の証明書を発行することはできるとしている。

#### 4. Profilesに基づくカリキュラムの一例

上記Profilesが出され、ベルギー・オランダ語共同体にある成人教育語学教育機関は、これに基づく新たなカリキュラムの作成を始めた。特に、公立機関ではProfilesに基づく授業が義務となり、共同体からの助成の条件となったため、教育省の検査官による査察が行われたことから導入が早く進んだ。ここではカリキュラム作成の一例として、ベルギー、ルーヴァン市にある成人向け語学教育機関Centrum voor Levende Talen (以下CLT)<sup>6</sup>について述べる。この教育機関の校長、教師が上記の成人言語教育委員会に入っていることもあり、いち早く導入が開始された。この機関は、年次コースを採用しており、授業数はProfilesの奨励している1年間120授業数で、4年間分のカリキュラムが作成された。

作成にあたってWaystage 1990 (Van Ek & Trim,1990a)<sup>7</sup>、Threshold 1990 (Van Ek & Trim,1990b)<sup>8</sup>を参考に用いた。その理由は、これらの本もCEF同様に各レベルの能力記述がされているのだが、その記述の方法が異なっており、カリキュラムを構築する上で、これらのガイドラインのほうがCEFより使いやすいと考えたからである。その違いは、まず、CEFにおいては総括表に基づき、各4技能について、発話なら経験談を言う、聴解なら発表、指示を聞くなどというような具体的な場面を設定し、その場面において各レベルの学習者が何ができるかが記述してある。それに対して、これらの本の記載はより具体的で、タスク遂行のために各レベルで習得すべき表現、語彙、文法などの言語項目が列記してあり、カリキュラム作成に対してより実際的な指針を与えると判断したためである。

各言語能力レベルは、WaystageレベルがCEF参照レベルのA2、ベルギーの成人教育に関する法令のRichtniveau 1.2、またThresholdレベルはCEF参照レベルのB1、Richtniveau 2にあたる(表1参照)。そして、各レベルの言語項目をLanguage functions(言語の機能)、General notions(一般的概念)、Themes and specific notions(テーマと個別概念)、Grammatical summary(文法)、の四つに分け、それぞれに、場面、文脈を設定し、その中に含まれるべき語彙、表現などを細かく記述してある。カリキュラム作成者は、目標言語でそれぞれの場面でどのような、語彙、表現を用いるかを考慮し、カリキュラムの作成にあた

<sup>6</sup> <http://www.clt.be/index.htm>

<sup>7</sup> J.A.van Ek and J.L.M.Trim (1990) *Waystage 1990*, Cambridge University Press.

<sup>8</sup> J.A.van Ek and J.L.M.Trim (1990) *Threshold 1990*, Cambridge University Press.

った。Threshold レベルは当初、英語教育を念頭において作成されたため、CLT では英語のカリキュラムがまず着手され、完成した。カリキュラムはできあがった時点で、教育省に提出され承認を受け、授業に反映できるよう、各月に何を教えるかを含めた年間プログラムが作られ、その後各週プログラム、教案が作成されている。

日本語のカリキュラムも4年間分が、他の言語を追いかける形で2002年初めに第1稿、その後手を加え、2002年6月に第2稿が完成した<sup>9</sup>。教育省の承認も受け、現在、年間プログラムが作成されている。現在のカリキュラムはRichtniveau 1.1とRichtniveau 1.2、つまりCEF参照レベルA1のBreakthrough、A2のWaystageの4年間分で、2005年度から、Richtniveau 2（CEF参照レベルのB1、Threshold）の4年間分のカリキュラム作成が着手される予定である。

## 5. 今後の課題

本稿ではCLTの例を挙げたが、ベルギー・オランダ語共同体のほかの言語教育機関でもCEFに基づいたカリキュラムが作成されており、2004年2月にはベルギー・オランダ語共同体の公立言語教育機関で日本語を教える教師がCLTに集まり、CLTで作成されたカリキュラムの説明会、および、意見交換会が行われた。CEFに基づくカリキュラム作成はかなりの労力を必要とするため、機関独自のものを作成できないところ、例えば、アントワープの公立言語学校などでは、現在、CLTのカリキュラムが使用されている。また、CEFの日本語への応用がまだ多くなされていないことからベルギー以外の国の日本語教師にも配布されている。今後の課題として、現在のカリキュラムはCEFを念頭に概念から教室活動へという方向で作られているが、CLTのカリキュラムを使用した教師フィードバックを通して、ベルギー・オランダ語共同体の教育現場で使いやすく、効果的なカリキュラムに変更していくこと、日本語表記指導を具体的にカリキュラムに盛り込んでいくことが挙げられる。現在、カリキュラムを使用した日本語教師へ出したアンケートの回答が返ってきており、そのフィードバックを参考に改定していくことになっている。さらに、欧州評議会から、CEFの評価法についてガイドラインが出されているが、それを踏まえて法令の定めたRichtniveauを効果的に、明確に評価するための評価基準の構築の検討が始まっており、CLTでは勉強会が開かれている。また、最終目標としてオランダ語母語話者のための日本語教科書の開発が期待されている。

<sup>9</sup> N.Sakurai, I.Verplancke (2002) *Leerplan Japans*, Centrum voor Levende Talen